SELF EVALUATION REPORT 2025

令和7年度

長生幼稚園まんまる

自己評価

教職員による自己評価結果と
今後の取り組み

REPORT / R07

長生幼稚園まんまる

RESULTS & OVERVIEW | 01

自己評価の概要と全体結果

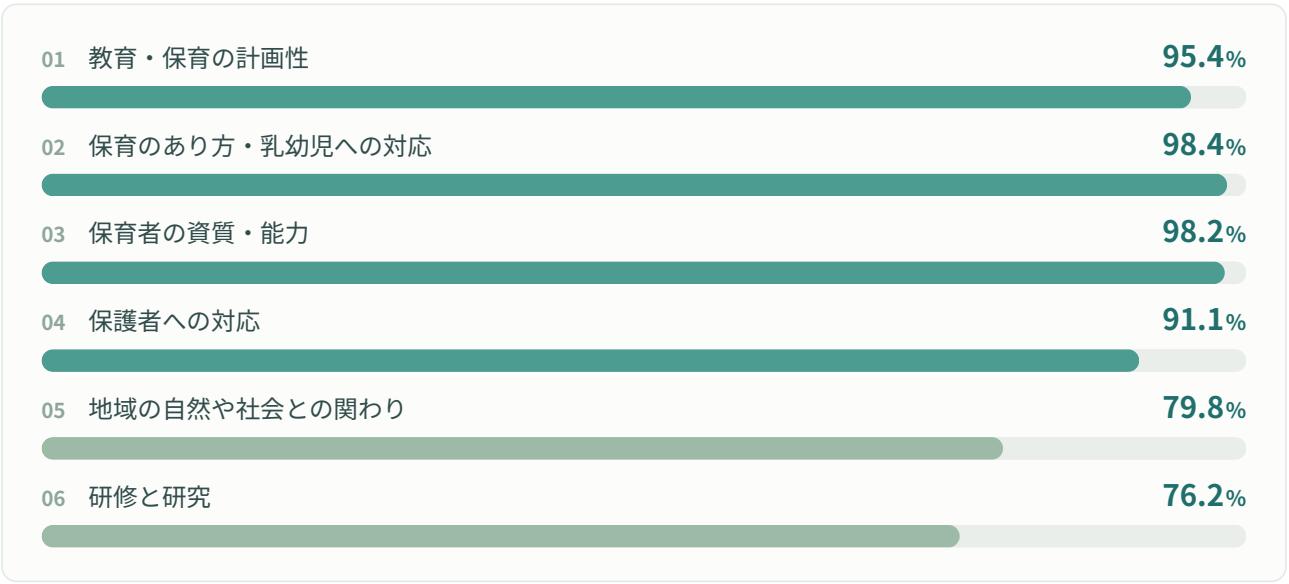
1 自己評価の概要

長生幼稚園まんまるでは、教育・保育の質の向上を目的として、教職員による自己評価を実施しました。日々の教育・保育活動や乳幼児への関わり、職員としての資質、保護者・地域との連携、研修への取り組みなどについて振り返り、成果と課題を整理しました。

今回の評価結果を今後の園運営と教育・保育の改善に活用していきます。

28名	32項目	6分野
回答者数	選択式評価（4段階）	自由記述を併用

2 自己評価の集計結果



※「できている」「ややできている」を肯定的回答として集計。各分野の割合は該当設問の延べ回答数に対する割合であり、個々の教職員の達成率を示すものではありません。

3 全体の評価

全32項目の肯定的回答　93.0%

全32項目の肯定的回答は93.0%となり、教職員による自己評価では、全体として肯定的な回答が多く見られました。

特に「保育のあり方・乳幼児への対応」「保育者の資質・能力」では、肯定的回答が98%を超えています。子ども一人ひとりの気持ちや発達を尊重した関わり、安全への配慮、職員としての責任意識などが高く評価されています。

一方、「地域の自然や社会との関わり」「研修と研究」では、他の分野と比較して改善の余地が見られました。今後は、職員間の情報共有や研修成果の活用、地域との連携などをさらに充実させていくことが重要であると考えています。

EDUCATION & CHILDCARE | 02

教育・保育の取り組み

4 教育・保育の計画性

肯定的回答
95.4%

取り組みと成果

教育・保育方針や目標を踏まえ、子ども一人ひとりの発達状況や興味・関心に応じた指導計画の作成と保育環境の整備に取り組んできました。

自由記述では、子どもの姿を観察しながら活動内容を工夫することや、子ども自身が興味を持った遊びを広げられるよう環境を整えることなどが挙げられています。

また、計画にとらわれすぎず、その日の子どもの様子に応じて柔軟に活動を見直す取り組みも見られました。

課題と今後の取り組み

日々の保育の振り返りや改善について、個人やクラス単位では取り組んでいるものの、その内容を園全体で共有し、次の保育計画に反映することには課題が見られました。

今後は、日々の記録と振り返りを充実させ、職員間で子どもの育ちや保育のねらいを共有しながら、計画・実践・評価・改善のつながりを大切にしていきます。

5 保育のあり方・乳幼児への対応

肯定的回答
98.4%

取り組みと成果

子ども一人ひとりの思いや考えを受け止め、それぞれの個性や発達に応じた関わりを大切にしてきました。

「子どものありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認める」「危険を予測し、安全な遊び方について考え対応する」などの項目では、肯定的回答が100%となりました。

自由記述からも、子どもの気持ちに寄り添った言葉がけや、自分で考え活動する姿を尊重した援助、安心して過ごせる環境づくりに取り組む姿勢がうかがえます。

課題と今後の取り組み

個別の配慮や支援を必要とする子どもへの対応と、集団での活動を両立することについて、難しさを感じる場面も挙げられました。

今後も子ども一人ひとりの発達や特性を丁寧に理解するとともに、職員間で援助の方法や子どもの様子を共有し、安心して主体的に活動できる環境づくりに努めていきます。

PROFESSIONALISM & PARENTS | 03

職員の資質向上と保護者への対応

6 保育者の資質・能力

肯定的回答
98.2%

取り組みと成果

教職員としての責任を自覚し、日々の職務や安全管理、個人情報の保護、職員間の協力などに取り組んできました。

特に「職務上知り得た秘密を守る」「教職員全員で一つのチームであることを自覚する」の項目では、肯定的回答が100%となりました。

また、自由記述では、職員同士で子どもの情報や保育上の課題を共有すること、互いに協力しながら行事や日常の保育を進めることなどが挙げられています。

課題と今後の取り組み

同じクラスや学年内での連携が進められている一方、学年や担当を超えた園全体での情報共有には課題が見られました。

今後は、職員間で意見を交換しやすい環境づくりを進め、保育上の課題や子どもへの対応について共通理解を深めていきます。また、事故やけが等への対応についても、日頃から確認と振り返りを行い、安全管理の充実に努めます。

7 保護者への対応

肯定的回答
91.1%

取り組みと成果

送迎時の会話や連絡帳、個別の面談などを通して、子どもの園での様子や成長を保護者に伝えることを心がけてきました。

また、保護者の相談や要望に丁寧に耳を傾け、家庭と園とで子どもの育ちを共有しながら、信頼関係を築くことを大切にしてきました。

自由記述では、子どものできるようになったことや日々の出来事を具体的に伝える工夫、保護者の気持ちに寄り添った対応などが挙げられています。

課題と今後の取り組み

保護者と十分に話す時間の確保や、相談内容の職員間での共有、分かりやすく正確な情報伝達などに改善の余地が見られました。

今後は、日常的なコミュニケーションを大切にするとともに、相談や要望に対して職員間で共通理解を図り、園として一貫した丁寧な対応ができるよう努めていきます。

COMMUNITY & IMPROVEMENT | 04

地域との連携・研修・今後の取り組み

8 地域の自然や社会との関わり

肯定的回答 79.8%

散歩や戸外活動を通した自然との触れ合い、地域の方との挨拶、他園との交流などに取り組んできました。

一方、「小学校の教育内容について理解するように努める」は67.9%、「子育て支援や地域開放について内容を理解している」は75.0%となり、職員の理解をさらに深める必要があることが分かりました。

今後は、地域の自然や施設を活用した活動を大切にしながら、小学校との接続や地域の子育て支援に対する理解を深め、子どもたちの経験や交流の機会を広げていきます。

9 研修と研究

肯定的回答 76.2%

園内研修や外部研修を通して、乳幼児の発達や個別の援助、保育環境の構成などについて学び、日々の保育への活用に取り組んできました。

自由記述では、研修によって子どもの理解が深まったことや、関わり方を見直すきっかけとなったことなどが挙げられています。

一方、「自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う」は64.3%となり、自らの課題を明確にした振り返りには改善の余地が見られました。

今後は、目的意識を持った研修参加を促すとともに、研修で得た知識や気づきを職員間で共有し、日々の保育実践と継続的な振り返りにつなげていきます。

10 今後の重点的な取り組み

今回の自己評価の結果を踏まえ、次の4点を中心に教育・保育の改善に取り組んでいきます。

① 保育の振り返りと情報共有の充実

日々の保育実践を振り返り、子どもの育ちや課題について職員間で共有する機会を充実させます。

② 一人ひとりの発達に応じた教育・保育の充実

子どもの主体性を尊重しながら、個々の発達や特性に応じた適切な援助と環境づくりを進めます。

③ 地域・小学校・保護者との連携強化

家庭や地域とのつながりを大切にし、小学校との接続や地域の子育て支援に対する理解を深めます。

④ 研修成果を活かした保育の質の向上

研修による学びを職員間で共有し、実践と振り返りを重ねながら、保育の専門性の向上に努めます。

11 総括

今回の自己評価では、子ども一人ひとりを大切にする保育や、教職員としての責任意識などについて、肯定的な回答が多く見られました。

一方で、職員間の情報共有、地域との連携、研修成果の活用など、園全体として改善を進めるべき課題も明らかになりました。

今後も自己評価を継続的な改善につなげ、子どもたちが安心して自分らしく成長できる教育・保育環境の充実に努めてまいります。

長生幼稚園まんまる